

自立活動「耳が聞こえないが武器になる」学習指導略案

1 対象

中・高等部（保健体育）

2 指導の形態

グループ学習ができる広いスペース。（スライドを映せる）
インターネットが使える環境である。

3 指導の目的（必要に応じて、個人の目標も設定）

- 1) 自分の動体視力について振り返る。
- 2) 耳が聞こえないことで、優れてくる体の機能に気づく。
- 3) 聞こえないからといって不利にはならないことに気づく。
- 4) デフのアスリート選手について知る。

4 指導にあたって（単元・題材の構成について）※箇条書きでも可

- ・互いの良い所さがしでは、それぞれ得意な面を見つけ尊重しあえるような声掛けをする。
- ・動体視力のテストの活用では、スポーツが苦手な生徒でも取り組みやすいようにゲーム形式に進めるとよい。

5 本時の展開

過程	学習活動	指導・支援内容（留意事項及び配慮事項）	評価の観点
導入 5分	活躍しているスポーツ選手を考えてみる。 ワークシート（1）－1	グループ学習（3人～4人） 活躍しているスポーツ選手をみんなで意見を出しあう。野球選手、サッカー選手、選手はだれでもかまわない。（3分） [スライド2]	積極的に話し合っているか。 【興味関心態度】
展開 40分	プロスポーツ選手の紹介 その選手の何が優れているのか、意見をまとめる。 ワークシート（1）－2	[スライド3] 話し合っ出て出した意見の発表（1分×8班） 何が優れているのか考えさせる。 [スライド4、5]	自分の意見と他人の意見をまとめ発表できるか。 【思考判断表現】
まとめ 5分	友達の優れているところを他己紹介する。 ワークシート（2） 特にろう者だからこそ優れている運動の運動能力はないか考える。 ワークシート（3） 動体視力の実験をやってみる。 ワークシート（4） ろう者のアスリートの紹介	2人ペアになって、お互いの優れているところを違うペアに紹介する。 （運動に関することじゃなくても可。互いを尊重しあえる意見を出すように促す） [スライド6、7] ペアで話しあってみる。 [スライド8] 動体視力のサイトを利用して実際にやってみる。 [スライド9] スポーツ界で活躍してきている、これから活躍する選手の紹介 [スライド10]	相手の意見を聞き、相手の良い部分をさがしているか。 【思考判断技能・表現】 取組状況を観察する。 【思考判断技能】 障害を持ちながらもスポーツに取り組んでいる仲間の努力を考えることができるか。【興味関心態度】

※特筆すべき留意事項

6 参考・引用文献または Web サイト

- ・動体視力向上 Labo <http://www.kineticvsn-lab.com/>

- ・ ろうを生きる難聴を生きる（NHK）<https://www.nhk.or.jp/heart-net/program/rounan/779/>

作成：平石量子、2019 年

編集：ろう者学教育コンテンツ開発取組担当